

一歩

社会福祉法人 アルカディア
令和2年4月発行 第26号

発行元：ニューズレター委員会

新型コロナウイルスを乗り切ろう

アルカディアニューズレター『一歩』をご拝読頂きありがとうございます。連日の報道で新型コロナウイルス感染症の収束の兆しが見えず、当法人としても、新型コロナウイルス感染症対策を最重要と捉え、利用者の皆様と職員個々人の『健康で安全な生活を守るためには』について日々検討し、対応に尽力しております。

今回のニューズレターでは、法人として対策を講じてきた経緯、グループホーム利用者の皆様が今感じている事、この危機的状況だからこそ学べることを記載していきます。

社会福祉法人アルカディア 「新型コロナウイルス感染症対策委員会の取組について」

3/20 「新型コロナウイルス感染症対策委員会発足」

1.目的

利用者、職員を新型コロナウイルス感染症から予防をするため、法人として検討し、最大限の防止策を講ずる。

2.情報の共有化

法人として「管理的な要素は少なくしたい」と基本的には考えるが、現状のコロナウイルスの脅威を鑑み、「管理的であるか？」の議論は二の次と捉え、全力で対策・予防に対しての周知徹底のために共有化を図る。

3.当面の課題

防止策、物品の確認調達、検温、外出(利用者・職員)のチェックを実施。

4.国、県、市町村の通知の確認、情報収集

連携は必要不可欠の状況であり、対策委員会で検討されたことを実施するため。県、市町村との連携を図っていく。

5.その他

全職員の協力及び意識付け、休暇及び給与保障も実施していく。

【具体的な内容として】

1.利用者、職員の体調(検温)、外出先などのチェック

2.隔離休暇の実施

職員、職員の家族の発熱時の休暇措置。コロナの影響でやむを得ず就業出来ない時の休暇措置
[職員の負担の軽減措置(有給扱い)]

3.コロナ対策に必要な物品・予防策・現状、課題に対する定期的な法人内共有

4.関係機関への情報収集

群馬県、市、群馬県精神障害者社会復帰協議会、群馬県精神保健福祉士会への情報収集
(感染者対応についても随時、群馬県、市に連絡は実施)

【今後の課題として】

- 「新型コロナウイルス感染拡大防止のための群馬県の緊急事態措置について(事業所に対しての措置内容は、4月18日(土)から5月6日(水)まで)」での原則としての自粛要請としては、社会福祉施設等は「対象外」となっているが、感染のリスクを最大限に減らすため、事業の縮小などの制限を支援の質を下げずに実施することを今後も検討する。
- 感染者対応については、入院できるのか?施設内での隔離になるのか?が現状では不明確となってしまう。防護服などの備蓄は備えているが、感染者拡大が進んでしまった場合の対応策は充分とは言えない。
- 群馬県、市町村の協議会が開催出来ていない事に対しての、利用者の皆様への日常生活上の影響も考えられる。また、毎年実施している「太田市のシンポジウム」の会議も開催出来ていない。障がいへの理解・啓発活動が継続出来ていないことも大きな課題となっている。

グループホーム利用者の皆様が、今の生活で感じている事



今回のコロナ騒動、はっきり言って困ってます。国からも、グループホーム事業所の職員からも『不要不急の外出は控えてほしい』と言われてました。具体的に不要不急って何ですか？買い物は？散歩は？よく分かりません。『ここまでは大丈夫』という線引きが曖昧過ぎる。最低限の外出だけにしようと思ってるけれど、外に出づらい。なんだか買物のために外に行ったら、他の人に非難されてしまうんじゃないかと感じてしまう。早く前の自由な生活に戻りたい…



なんか大変だよ。グループホームの職員さんだって大変じゃない？
でもさ、今回の事でグループホームのメンバーの間の絆がより深まったと思うよ。お互いに手洗いうがいをしたかの声掛けの意識をしてさ。このピンチを皆で乗り越えようと一致団結してる感じかな。悲観的になってもしょうがないから、やれることはやって乗り越えようよ。



コロナってそんなに危険なんですか？危険だという実感がわからないんですよ。マスクや手洗い消毒をしても、かかる時はかかるじゃないですか。マスクとか消毒液とか準備してもらったけど、いつもそれをするのは大変なんですよ。



グループホームの職員さんの意見とか指示に従います。それが1番安全だと思ってるから…。本当は、色々考えるのが疲れたんです。テレビを見ればコロナの悪いニュースしか放送されないし、あれはダメこれはダメ…生きづらいです。



コロナにかかりたくないから、高いけどネットでマスクを買いました。私はネットで必要なものが、少し高くても買えるけど、ネットを使えない人は大変だと思う。便利で不便な世の中ですよ。



もっと自由に買い物に行きたい!!もっと出掛けたい!!…ストレス溜まっています。
その中でも同じグループホームのメンバーさん皆で散歩に行ったり、トランプをしたり、皆で仲良く生活できるようになったと思います。もちろん距離をとってやっていますよ!!



医療崩壊が怖い。精神科の薬だけでなく、内科の薬も処方してもらえなくなったら…。そうならないような体制を整えてほしい。



コロナの影響で実家に外泊できなくなったことが1番困っているし悲しい。家族から「今は帰ってこない方がお互いにとっていい。」と言われて、グループホームからは「少し我慢をして、コロナが落ち着いてからの外泊にしてほしい。」と言われてしまった。早く前の生活に戻りたい。

新型コロナウイルス感染症と社会 ～感染拡大のさなかで何を学ぶか～

I はじめに

街は静まり、行きかう人々もまばらな風景がそこにある。「一体、この先、どうなっていくのだろう？」と市民はとまどいを隠し切れない。不安と恐怖の連鎖が人々の心の中に忍び寄ってきている。

感染症は、世界を席卷し、いまだ、衰えることを知らず、拡大している。まさに人類が未曾有の危機に直面しているといっても決して過言ではない。

「最近頻発する多様な災害が起きている。まるで地球が怒っているかのようだ。」「何に怒っているのだろう？」…。人類の横暴さに対して？自然破壊に対して？資本の飽くなき膨張による貧富層の拡大に対して？…。

ともあれ、このような状況下で、新型コロナウイルス感染症について考えていくとともに国民、市民に私の想いを発信していきたい。

II なぜ、かくも全世界に拡大したのか？

(1) ウイルスなるものの正体

新型コロナウイルスなるものについて詳細はわからない。専門家ですら、その全容を把握しきれていないから私ごときが、その正体について知る由もない。ウイルスという顕微鏡の世界でしか見ることができない「生物」の実態を語るには余りにも知識不足である。

「目に見えない物体」、「自己増殖できない」「他生物の再訪を利用して複製させる」「代謝、増殖できないため、非細胞性生物」といことくらいが現時点において判明しているだけである。要するにまだまだ正体が分からないことが多い物体と言ってよい。しかもこの数十年間、約10年に一度くらい新型コロナウイルスによる感染症が発生している。この事実は何を物語るのでしょうか？

(2) 感染経路

コロナウイルス感染は基本的に接触感染を含む飛沫感染である。人と人とが接触すれば感染の危険性は誰しもがもつ。いわゆる「3密」を避けるといわれているゆえんである。そして感染のスピードが速く、高いという事実は、この間の増大傾向を見ていれば、一目瞭然である。

更に「潜伏期間が約2週間であることからして、潜伏から発症するまでの間に他人に感染するケースも大いにありうる。人との接触機会をできるだけ控えるのが「鉄則」となる。

(3) グローバリゼーション(国境なき人々の往来)

全世界的拡大の最たる要員は、言うまでもなくグローバル化にあるだろう。

今や、日本から海外、海外から日本への出入国はかつてみられなかったほど増大している。

グローバリゼーション(国境なき世界)といわれる現代社会の特性は今や当たり前のように日常化している。

今回の新型コロナウイルスは、隣国・中国(武漢)が発生源と言われている。その武漢は既に「終息宣言」を出したが、世界的規模でいえば終息どころか拡大し続けている。海外渡航者から日本に持ち込まれたことはほぼ間違いない。この数十年間で世界がグローバル化したことは、国や大企業に責任の多くがあるのではないか。結果として、ヨーロッパ各国、アメリカなどが残念ながら感染の最前線に立たされている。

課題はグローバル化が経済中心に進められたとすれば、それに伴う医療、環境、格差是正等の課題も同時並行的に連携・協力態勢を構築すべきだった。経済中心という世界の在り様が今回のコロナ感染症を今後、教訓化していく大きなポイント(契機)にしなければならないのではないか！

III 国の対応はスピード感に欠ける

先に触れたように国の対策は遅れている。端的に言えば、感染症対策と経済的ダメージはワンセットなのだが、感染症沈静後の経済対策に重きを置いていると思える。それゆえ、補償問題においてもスピード感の欠如が目立つ。また、日本経済の下支えをしてきた中小企業(個人営業を含んだ)に対する措置があいまいのままだ。

誤解を恐れず言えば、「ほしかいません、勝つまでは」という戦時中の標語を想起させられるような対応にみえる。

IV 国民の安全・生命と経済の再建

生命と経済的問題を国は「車の両輪」という。しかし、両輪とはそもそも選択しえない物事に対する「きれいごと」だ。この事態に関していえば、選択肢は当然のごとく国民の安全・生命に他ならない。「車の両輪」ではない。余談ながら両輪(タイヤ)のサイズが違えば、その車はまっすぐに走らず、蛇行、ある時は同じ円形を巡り回るだけだ。この疑いなき選択をこの国は、先送りしようとしてるとしか思えない。

V 報道の在り様を問う

わかりやすい報道を期待する

今に始まったことではないが、最近のメディアは、カタカナ文字の「専門用語」をやたら乱発する。「クワスター」、「オーバーシュート」、「ロックダウン」、「パンデミック」、「インバウンド」、「アウトブレイク」などなど…。

国民にとって初めて耳にする表現ばかりだ。これらの表現はその分野に精通した人たちの専門用語であり、そのまま、メディアがそのままTV、新聞、ラジオ等で流してしまうからだ。

もっとわかりやすい報道を心掛けるのがメディアの役割だと思われるのだが…。

VI 福祉(私たちの現場)と感染症

(1)利用者への配慮

中小、零細企業、個人営業者はもろにこの事態の影響を受けてしまうが、福祉業界は、直接的に影響を受けることは最小限度に抑えられている。ただ、「緊急事態宣言」が発令されたとなれば、そうもいってられない。通所事業所には通所者制限も課せられてくる。その場合、補償はどうなるのか?はつきりしていない。ダイヤモンドプリンセス号の頃は「他岸の火事」と思っていたが…

私たち福祉現場での取り組みは、別に掲載(ニュースレター1ページ目)するが最大限の対応に努力している。とにかく利用者、職員ともにより一層の危機意識を持つことが大切だ。

(2)現場従事者への配慮

同時にこの事態の中で発生している福祉現場職員の感染～事業所(施設)内感染も大きな課題となっている。事務所職員の感染予防、安心感への配慮は、法人の自助努力だけでは限界が生じている。職員の出勤制限、事業の縮小、休業についても検討すべき段階にきている。かかる状況において、国、県、市町村は明確なガイドラインを提示していない。(休業時の補償についても)

「人と人との接触を80%に抑える」ことが目標であるとすれば、そこで働く職員への措置も検討されてしかるべきと思う。

VII おわりに(できるだけ前向きな発想を)

この状況がいつまで続くのかさえわからない。かといって災害と同様に誰が悪いというわけでもない。幸い、日本人の国民性というか、特性のひとつとして「辛抱強さ」「秩序を重んじる」傾向がある。イタリヤ、フランスなどいわゆるラテン系とは、国民性が異なる。「国難的窮地」に耐え忍ぶことができる。かかる国民性に期待しよう。

同時に「今は感染拡大に全力を尽くす」ことが最優先だが、一段落した時点で再検証することを忘れないようにしよう。国を始め、国民一人一人が新型コロナウイルス感染症という「緊急事態」にどう対処したのか?そこで学んだことは何だったのか?この検証作業を絶対忘れてはならない。一刻も早くこの状況から脱することを願いつつ。

(社福)アルカディア
中田 駿

アルカディア ニュースレター委員会 本部
群馬県太田市鶴生田町733-123 TEL:0276(20)2509 FAX:0276(20)2510

ニュースレター及び法人情報につきましては、<http://arcadia-gr.com/> でもご覧いただけます。